



「2017 年 3 月期第 2 四半期決算説明会」概要

11 月 11 日(金)、東京放送ホールディングスの「2017 年 3 月期第 2 四半期決算説明会」が行われました。概要は以下のとおりです。

出席者：東京放送ホールディングス代表取締役社長	武田 信二
代表取締役専務取締役	藤田 徹也
常務取締役	河合 俊明
常務取締役	佐々木 卓

参加者:およそ 50 名

〈決算ハイライトほか〉 武田社長

上期の連結決算は、売上高 1,725 億円、営業利益 73 億円、経常利益 109 億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は 68 億円。放送セグメントと映像文化セグメントは増収増益、不動産セグメントは減収増益であった。上期の業績予想と比べると売上高は同額で、営業利益以下の各利益は大きく上回る結果となった。通期の連結決算の予想を修正し、売上高は 3,520 億円、営業利益 170 億円、経常利益 225 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、138 億円と予想している。

今年の 5 月に、「グループ中期経営計画 2018」を発表させて頂いた。数値目標としては、2018 年度における連結売上高 3,730 億円、連結営業利益 195 億円の達成を掲げたものだが、この上期もこの目標に向かって様々な取り組みを行ってきた。

何よりもこの上期は視聴率について、さらなる改善が進んだ。ゴールデン帯の視聴率は 2014 年度上期には民放 4 位だったが、この上期は民放 2 位タイにまで上昇させることができた。全日帯の視聴率も民放 4 位から 3 位へと上昇。これに満足することなく、秋の編成テーマにもあるように「もう一步、前へ！」を旗印にさらなる上昇を目指す。

また、動画配信事業において、当社の無料動画配信サービス「TBS FREE」は配信番組数を増やすなどの施策により、普及がさらに進んでいる。また、在京民放 5 社による無料動画配信サービス「TVer」は開始から一年が経過し、ユーザー数は順調に増加。アプリのダウンロード数は 400 万を突破した。一方、有料配信事業においても、この 10 月から「プレミアム見放題」と名づけた定額の見放題サービスを新たにスタートさせ、さらなる成長を図っている。さらに、新規事業開発による多角的な収益力向上に向けて、豊洲に新しい劇場「IHI ステージア라운드東京」を建設中である。

〈TBS グループの財務状況など〉 河合常務

上期の連結売上高は 1,725 億円で 27 億円の増収。営業利益は 73 億円で 14 億円の

増益。経常利益は109億円で25億円の増益。親会社株主に帰属する四半期純利益は20億円増益の68億円となった。単体ではTBSホールディングスの売上高は87億円で2億円の増収。営業利益は、2億円増益の19億円。一方、経常利益は、9億円減益の105億円となった。TBSテレビの売上高は1,049億円で27億円の増収。営業利益は22億円で13億円の増益。経常利益は17億円増益の41億円。四半期純利益は12億円増益の28億円。

TBSテレビの収入の内訳だが、タイム収入は、前年の世界陸上の反動などにより4億円減収の420億円。一方、スポット収入は10億円増収の409億円。放送部門全体では7億円の増収。事業部門の収入は139億円。興行、海外事業など多くの部門が健闘し、19億円という大幅増収となった。不動産部門は、ほぼ前年並み。

主な関連会社の業績について、TBSラジオの売上高は54億4,000万円で、2億3,000万円の増収だったが、ワイドFM関連等の費用の増加で営業利益は9,000万円減益の1億円となった。BS-TBSはタイム、スポット、ショッピングがともに好調で、売上高は3億8,000万円増収の83億1,000万円、営業利益は4,000万円増益の9億5,000万円。

〈視聴率、編成方針、その他のビジネスなど〉 佐々木常務

上期の視聴率は、全日帯が6.0%、G帯が9.8%、P帯が9.6%。全日帯、ゴールデン帯はともに前年上期を上回った。とりわけ、G帯は9.8%で民放2位タイまで順位を上げ、全日帯も民放3位と、ひとつ上げた。上期の個別の番組、まずドラマでは、4月スタートの日曜劇場『99.9-刑事専門弁護士-』は最高で19.1%、平均で17.2%と、たいへん高い視聴率を獲得。また、10月に発売したDVDが、約2万セットという驚異的な売上を記録。7月にスタートした、同じく日曜劇場『揚げば尊し』も安定した視聴率をマークし、日曜劇場というブランドの価値向上に貢献した。バラエティでは、『爆報! THEフライデー』『ぴったんこカン・カン』『中居正広の金曜日のスマイルたちへ』の3番組が引き続き大変好調な金曜日に加えて、『マツコの知らない世界』が牽引する火曜日、『プレバト!!』『モニタリング』『櫻井・有吉 THE 夜会』がいずれも堅調な木曜日など、安定した視聴率を獲得する曜日が増えてきている。スポーツ番組では、この上期にはリオ五輪が開催され、当社は女子マラソンの中継で22.6%という高視聴率を獲得。

10月以降の番組について。火曜ドラマ『逃げるは恥だが役に立つ』は、開始以来右肩上がりで見聴率を上げ、第5話までの平均視聴率が12.1%と好調。このドラマについては、TVerなどでの第1話の見逃し無料配信が110万回という、これまでの最高記録に達した。日曜劇場『IQ246』も平均視聴率が11.9%と多くの方にお楽しみ頂いている。

1月スタートのドラマでは、日曜劇場で木村拓哉さんを主役にお迎えする。タイトルは『A LIFE〜愛しき人〜』。木村さんが卓越した腕を持つ職人外科医を演じる。

映画では、「64-ロクヨン-」が、前後編あわせての興収が36億円と、大変大きいヒット作となった。3月には、広瀬すずさん主演の青春映画「チア☆ダン」の公開も控えており、こちらもヒットが期待される。この上期には大きな成功をおさめた展覧会もあった。3月から5月にかけて東京都現代美術館で開催した「スタジオ創立30周年記念 ピクサー展」には、およそ33万人の方にご来場頂いた。これは、東京都現代美術館の入館者数の新記録であるとのこと。